

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：神石高原町立三和中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
神石高原町立三和中学校	5	82
神石高原町立来見小学校	8	70
神石高原町立三和小学校	8	116

(R3.11.1現在で記入)

1 指導上の課題

- ・簡潔に説明する力、まとめ・活用する力、内容を理解して聞く力が不十分である。
- ・友達と関わりながら課題を解決する力が不十分である。
- ・地域に関する教材研究、内容研究が不十分である。
- ・総合的な学習の時間に力を発揮できる資質・能力について、地域にある高校との連携をさらに進め、深める必要がある。

2 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

研究テーマ

主体性を発揮する児童生徒の育成

— 「地域」を教材とした探究的な活動を通して—

(2) 資質・能力の設定について

「課題発見力」「課題解決力」「振り返り力」

(3) 取組について

【探究的な学習の充実に向けての取組】

- 「つけたい資質・能力」「探究的な学習のながれ」のカードの活用
- 授業者のファシリテート
- 本物こふれる機会の設定

【小中連携の取組】

○めざす子どもの姿の作成と共有

三校全職員が参加し、設定した資質・能力について、学習指導要領に示された評価の観点との関連、めざす児童生徒の具体的な姿を表にまとめた。

課題発見力：『思考・判断・表現』①「課題の設定」

課題解決力：『思考・判断・表現』④「まとめ・表現」

振り返り力：『主体的に学習に取り組む態度』③「将来展望・社会参画」

○授業研究

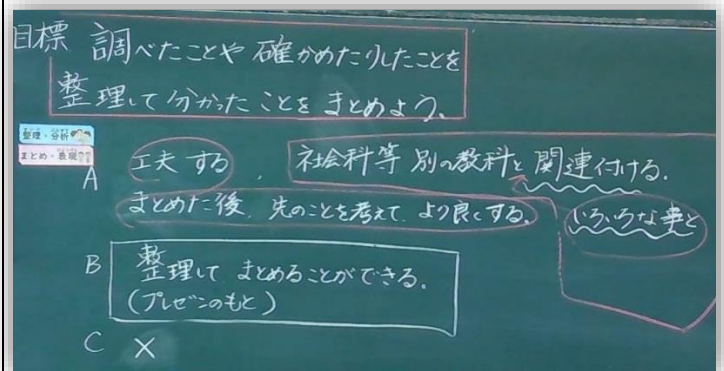
各校の校内研究授業を参観し合い、協議にも参加した。指導案の作成の仕方や授業づくり等についてお互いに学び合う機会になった。

【資質・能力の評価】

○ルーブリックの作成

- ・資質・能力に合わせてルーブリックを作成し、指導案に位置づけた。
- ・授業始めにおいて、児童生徒に示したり、児童と共に作成したりし、振り返りにおいては、自己評価の視点として活用した。
- ・低学年においては、ルーブリックに沿って振り返らせるため

に、簡単な話型を示した。



振り返り(A~Cのうちで○を付けてください)

A	B	C
町の課題を自分事として捉え、解決に向けて自分の意見を言ったり、友達の見解も聞いたりして見通しを持った計画を立てることができている。	町の課題を自分事として捉え、解決に向けた話し合い活動に参加することができている。	町の課題解決に向けた話し合い活動において、友達の見解を聞くことができた。

そのように自己評価した理由、本時の学習を終えて勉強になったこと など

- ・今年ほど「00」の表現が「00」で書けるようになったと喜んでいて、授業中「00」をたくさん書いて、今日は「00」の話し合いの発表は、みんなが褒めてくれた。
- ↑
- ・10分で「00」がわかるようになって、深く「00」が

3 実践事例

【探究的な学習の充実に向けての取組】

○授業者のファシリテート

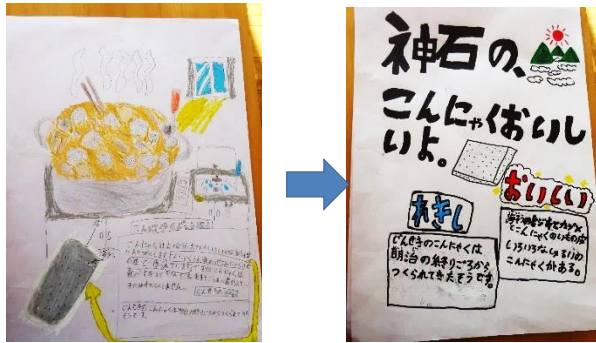
小学校第2学年の生活科で、自分が作ったおもちゃでどうやって遊ぶか、1年生に説明する準備活動。どうやって遊んだらよいか行き詰まっている児童に気付いた指導者は、直接指導するのではなく、周りのみんなに協力してもらうようにファシリテートしていった。行き詰まっている児童が学級全体にアイデアを求めると、どんどんアイデアが出てきた。児童はその中から気に入ったものを選択し、指導者にうれしそうに報告。そして、遊び方の説明を書くことにつながった。



○本物こふれる機会の設定

小学校第3学年、「神石高原町のこんにゃくを広めよう」での、こんにゃくを広めるためのポスターづくり。左側には、自分たちが調べたことを一生懸命つめた最初のポスター。右側には、プロ

からのアドバイスをを受けて再度作り直したポスター。



アドバイスどおり、3メートル離れたところから見て確認しながら、一番伝えたいことを大きく、絵も言葉もシンプルにした。最初は自己満足で終わっていた児童だが、プロの視点を取り入れることで、相手意識をもち、誰にでも伝わるポスターを作ることができ、子どもたちも大満足だった。

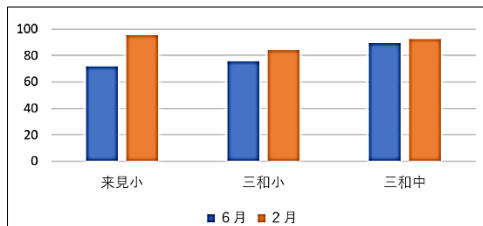
4 研究の成果と課題等

(1) 成果

- ・校区全職員で育てたい子ども像を共有できた。
- ・既存の型や枠にとらわれず単元開発できた。
- ・児童生徒が主体的に学習するための授業の工夫（授業者がファシリテートすること、本物にふれる機会を設定することなど）ができつつある。
- ・校内研修に参加し合うことで、生活科や総合的な学習の時間の校内授業研究会のもちかたの交流ができた。

<児童生徒アンケートより>

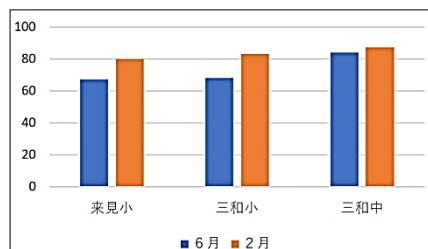
- ・児童生徒の意識の向上
「友だちと話し合う時、お互い納得のいく考えをつくらうとしています。」という項目で、肯定的な回答が年度当初より上がった。（％）



話し合い活動が充実し、自分たちの思いを出し合いながら、納得解をつくり出そうという意識が向上したと考えられる。

- ・児童生徒の振り返り力の向上

「学習の振り返りをするときには『どこまでわかったか』『学習方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由』を考えています。」という項目で、年度当初より、肯定的な回答が上がっている。（％）



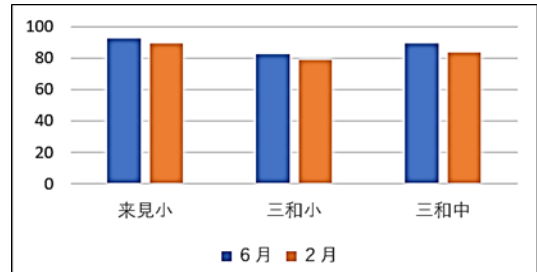
ルーブリックを児童生徒と共有し、振り返りの視点がはっきりした結果だと考える。

(2) 課題

- ・深く広い教科研
- ・児童生徒が中心となる単元構成（単元の導入の方法の工夫など）
- ・コロナ禍での豊かな学びの在り方
- ・ルーブリックの作成や視点

<児童生徒アンケートより>

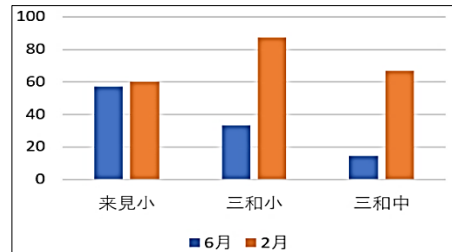
- ・「振り返りをするときには『もっと考えてみたいこと』『もっと調べてみたいこと』『もっと工夫してみたいこと』などを考えています。」という項目の肯定的な回答が年度当初より下がっている。（％）



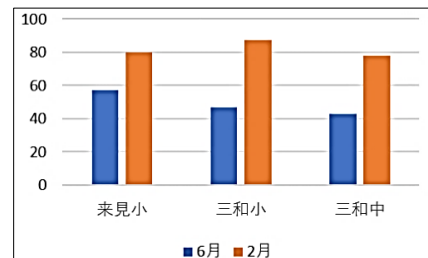
単元構成が要因の一つだと考えられる。児童生徒から次は〇〇をしたい、〇〇をしなければ・・・自然と新たな課題が生まれるような単元構成をしていく必要がある。

<教職員アンケートより>

- ・「指導者も学習教材を集めたり地域へ出て探究活動を行ったりした。」という項目では、年度当初より上がっているが、他項目と比べると低い。（％）



- ・「児童が情報収集の方法を選択し、PCや本物に加えてインタビューやフィールドワーク等様々な情報収集活動を行うようにした。」という項目も年度当初より上がっているが、他項目と比べると低い。（％）



コロナ禍で制限された部分も多いと思われるが、まずは指導者が外に出て教科研を行うことが必須である。児童生徒が求めるであろうことを予測し、それに対応できるように準備しておく必要がある。

(3) 今後の改善方策等

- ・教科研をさらに充実させる。
- ・児童生徒が主体的に学ぶ単元構成の工夫（導入の工夫、立ち止まりポイントを作るなど。）
- ・評価の在り方を研究する。